

美作市人口ビジョン
「2040年の人口を25,000人以上に。」

令和 2 年 3 月改訂

岡山県美作市

1 合併後の人口の推移と人口ピラミッド

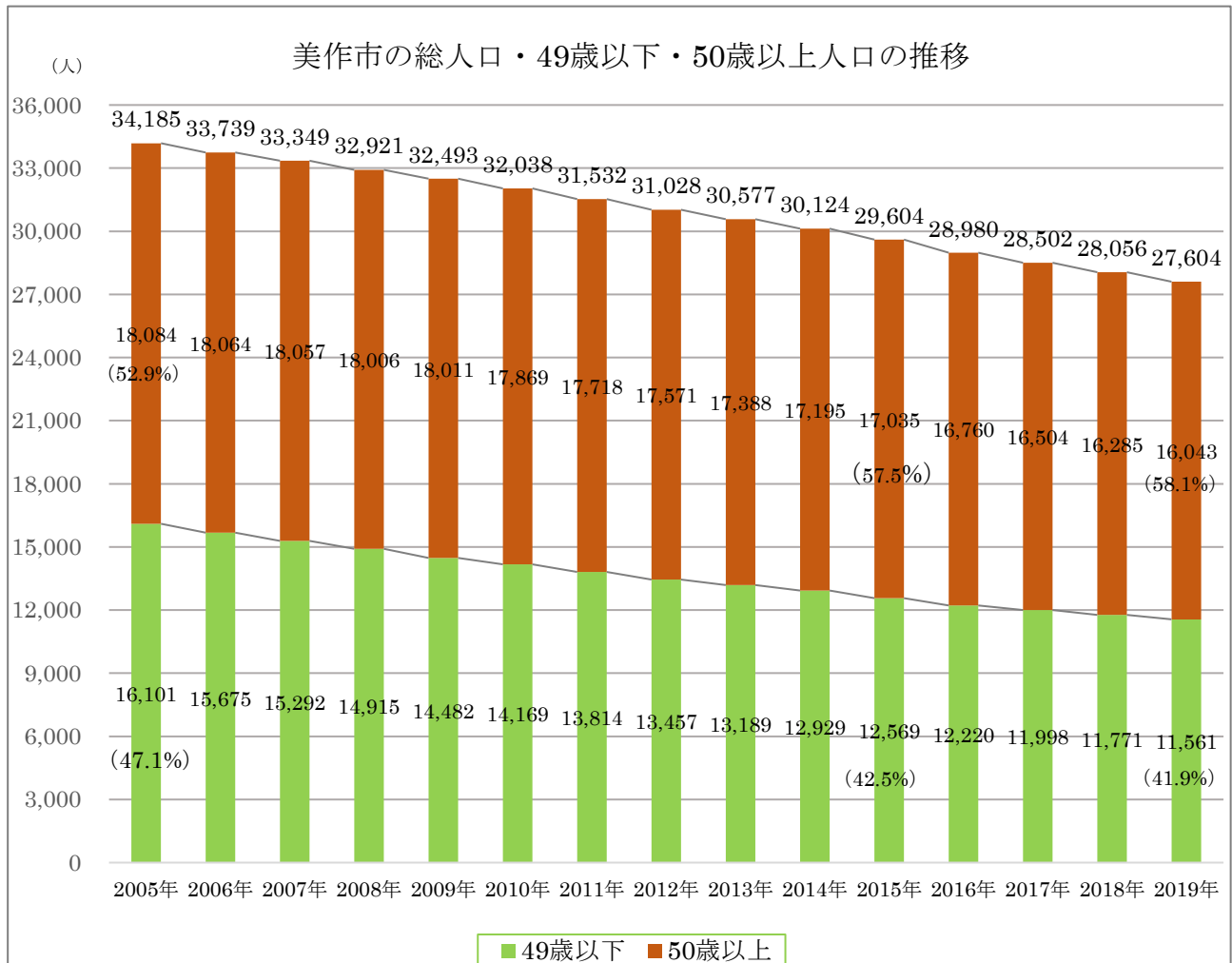
美作市の人口は、2005（平成 17）年 3 月 31 日に 6 町村が合併し、市制が施行されて以降、減少し続けている。グラフ 1 は美作市の住民基本台帳をもとに作成した市制施行以降の美作市の人口の推移である。

以下、美作市住民基本台帳の数字をもとに、分析を行う。

市制施行以降、美作市の人口は一貫して減り続けており、34,185 人であった人口は 2019（平成 31）年には 6,581 人（△19.3%）減少し、27,604 人となっている。

WHO（世界保健機関）が合計特殊出生率を計算する際、出産可能年齢の上限としている 49 歳を区切りとして、各年の人口を区分すると、高齢化が進む美作市においては、2005（平成 22）年と 2019（平成 31）年を比較すると、49 歳以下人口よりも 50 歳以上人口のほうが多いまま推移しており、50 歳以上の人口は 5.2 ポイント増えていることがわかる。

グラフ 1 【美作市の総人口・49 歳以下人口・50 歳以上人口（外国人含む）】

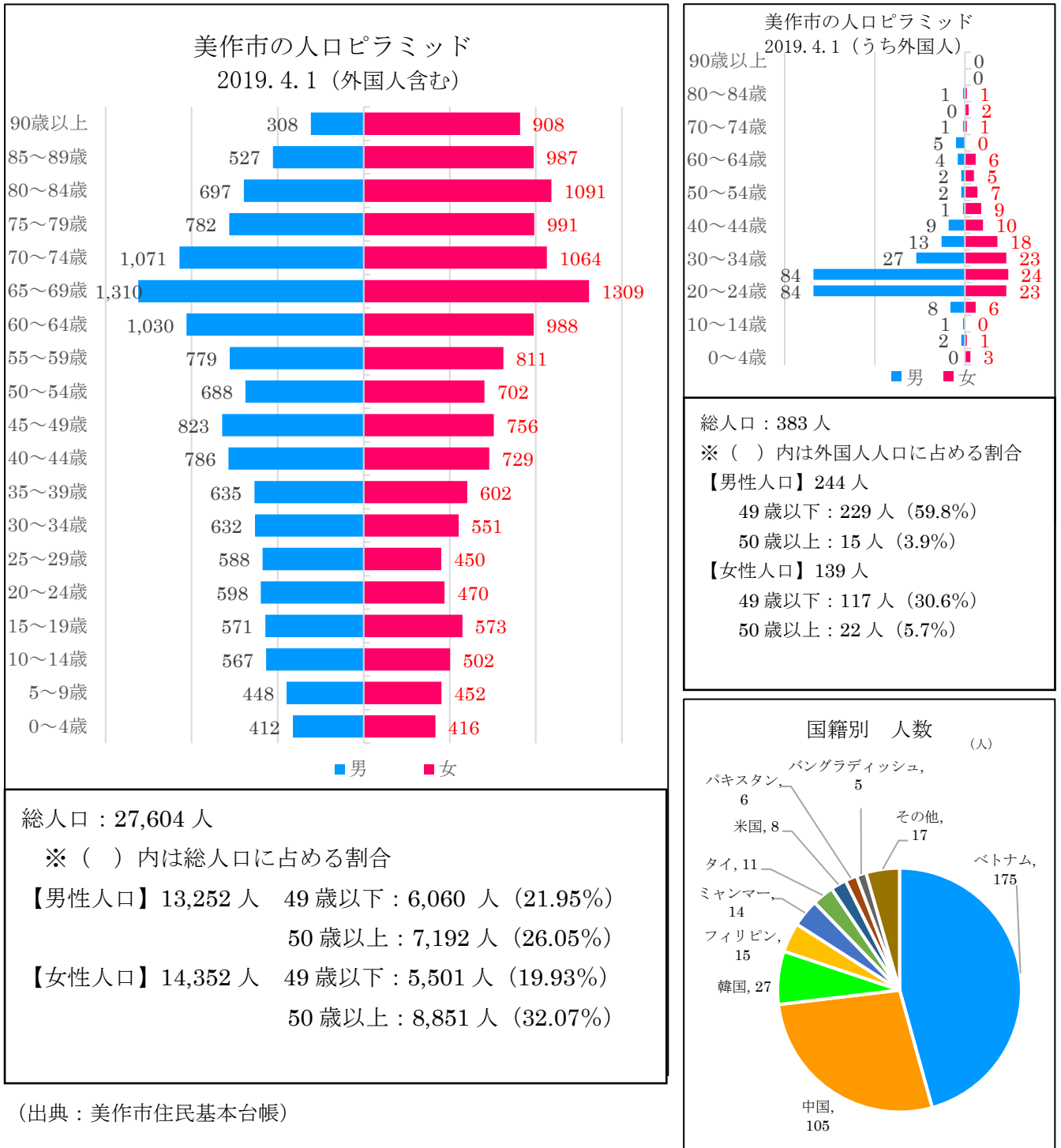


（出典：美作市住民基本台帳）

グラフ2は2019（平成31）年4月1日現在の美作市の人口ピラミッドである。

49歳以下人口よりも50歳以上人口が多く、バランスの悪い形となっている。また49歳以下については、年齢が低下するにつれて、ほとんどの世代で人口が少なくなっていることがみて取れる。現状のままでは、人口が先細りとなることが人口ピラミッドにも表れている。美作市在住の外国人の人口は、2019（平成31）年4月1日現在で383人となっており、総人口に占める割合は1.4%である。外国人の人口、占める割合については年々増加している。

グラフ2【美作市の人口ピラミッド2019】



総人口：383人
 ※（ ）内は外国人人口に占める割合
【男性人口】244人
 49歳以下：229人（59.8%）
 50歳以上：15人（3.9%）
【女性人口】139人
 49歳以下：117人（30.6%）
 50歳以上：22人（5.7%）

国籍別 人数 (人)

国籍	人数
ベトナム	175
中国	105
韓国	27
ミャンマー	14
タイ	11
米国	8
パキスタン	6
バングラディッシュ	5
その他	17

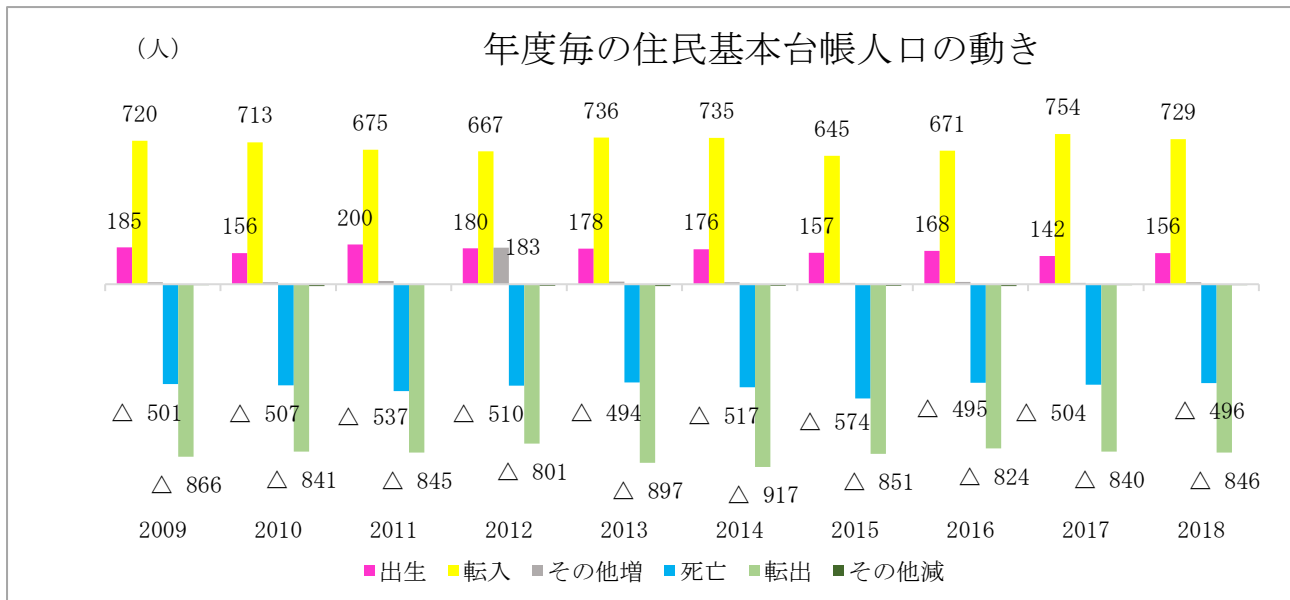
(出典：美作市住民基本台帳)

2 自然増減・社会増減

高齢化が進んでいる美作市では、死亡数が出生数を大きく上回るため、グラフ3にみられるように、自然減（出生数－死亡数）の幅が毎年300人以上で推移し続けていることがわかる。

また社会増減についても、転出が転入を上回っており、常に減少が続いている。

グラフ3 【美作市の自然増減・社会増減の推移】



2018年度の住民基本台帳人口の動きは、人口は452人減少したものの、出生は156人で、前年度と比べ14人の増、死亡は496人で8人の減となり、自然動態は22人改善しました。出生者数の増については、出産祝金の支給を2017年度から始めたこと、死亡者数の減については、高齢者人口そのものが減少していることが原因として考えられます。

(美作市財政の総点検【第6版】より抜粋)

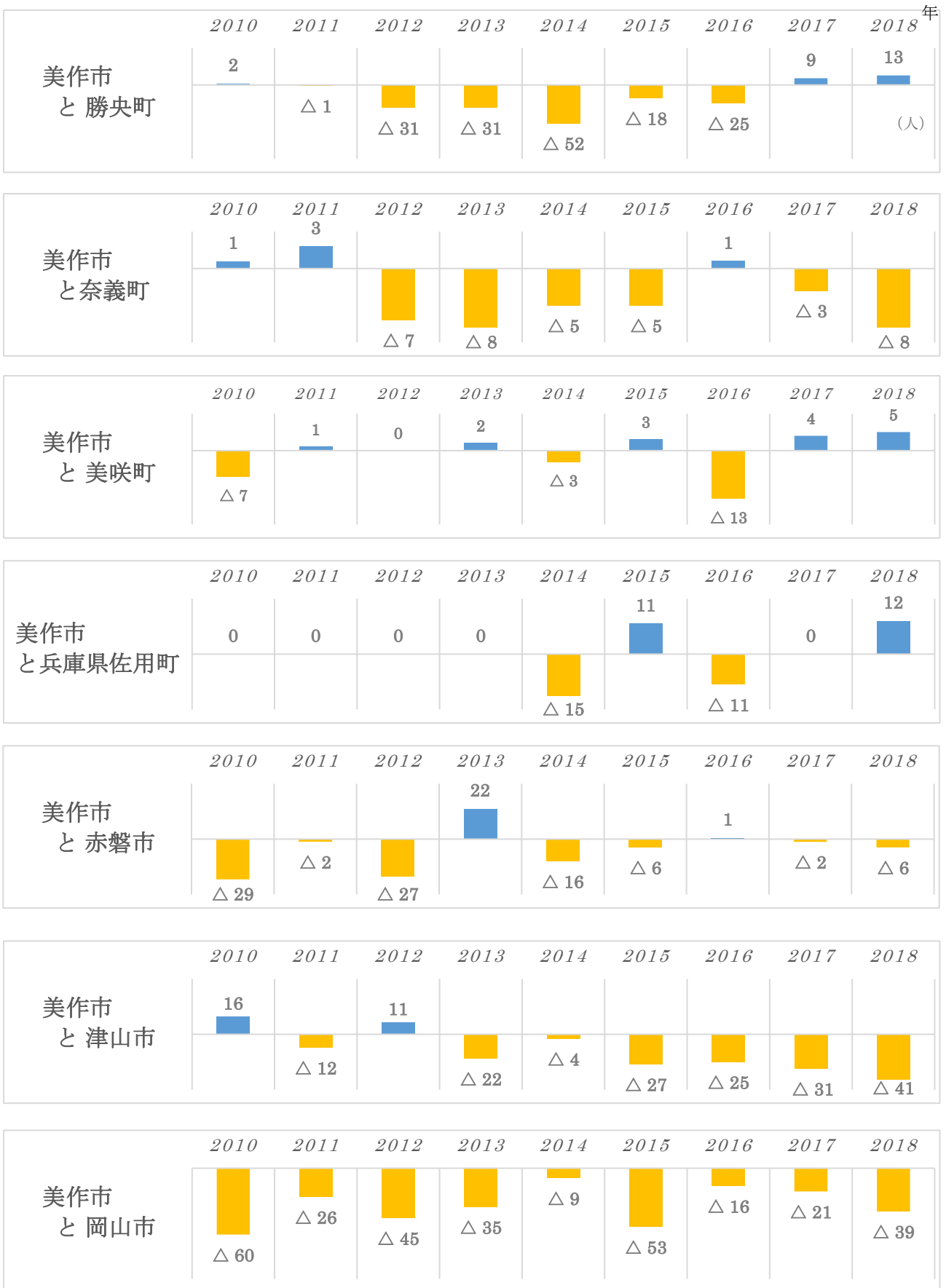
3 美作市への転入超過・美作市からの転出超過

グラフ4は、2010（平成22）年度から2018（平成30）年度までの美作市と近隣市町（勝央町、奈義町、美咲町、兵庫県佐用町、赤磐市、津山市、岡山市）との年度毎の人口移動（転入・転出）の関係を表している。他の市町から美作市への転入が転出より多ければ、プラスの数字、逆に美作市から他の市町への転出が転入より多ければ、マイナスの数字となっている。

美作市と勝央町、美咲町、佐用町との関係では、2017（平成29）年度から転入超過の状況に改善されたが、岡山市、津山市には転出超過の状況が依然として続いている。美作市から岡山市と津山市などに人口が動いている状況を食い止めるための対策を講じる必要がある。

また美作市から赤磐市への転出が多かったが最近では改善されつつある。

グラフ4【転入転出超過の推移】



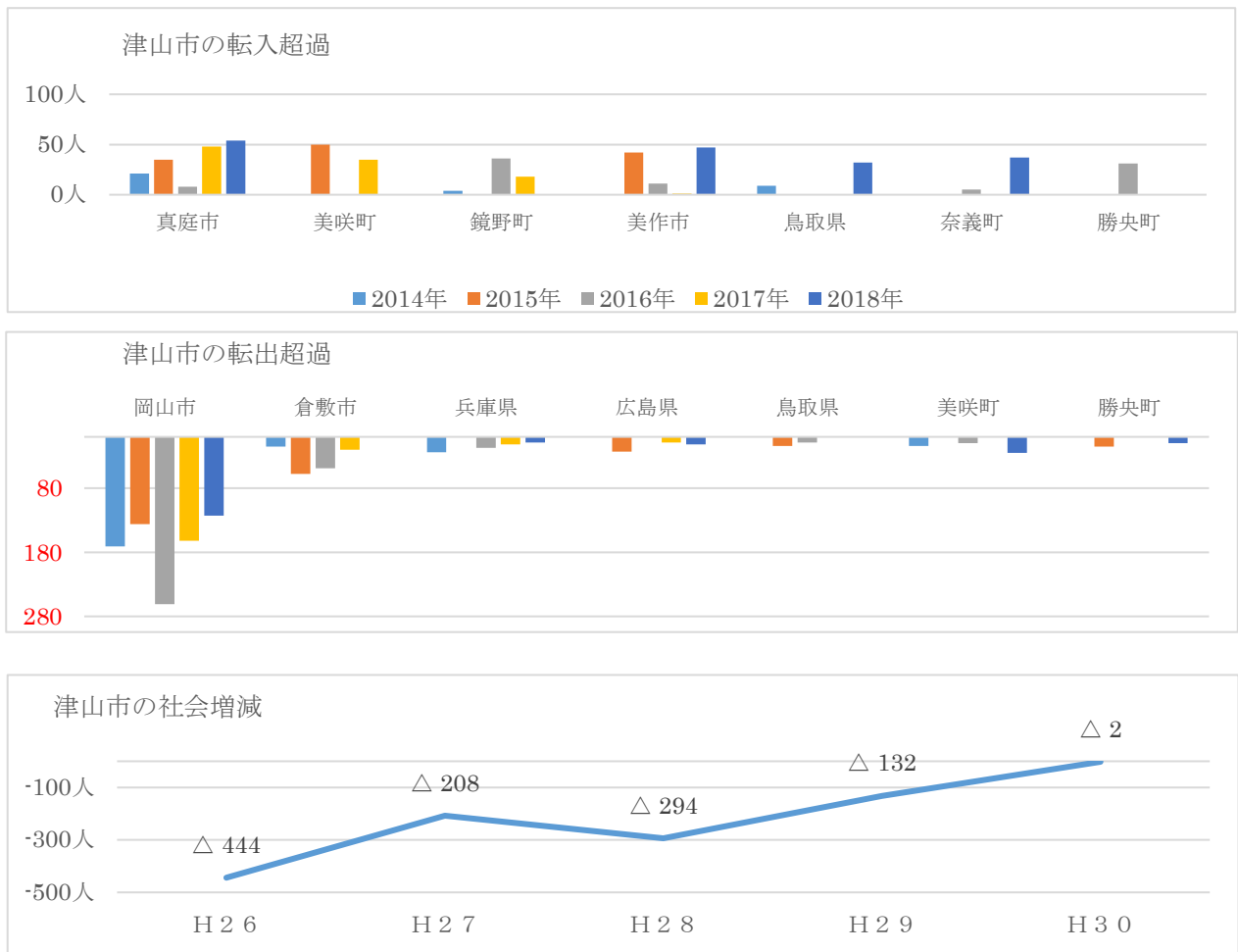
(出典：美作市市民部調べ、但し佐用町に関しては地域経済分析システム (RESAS) 出典)

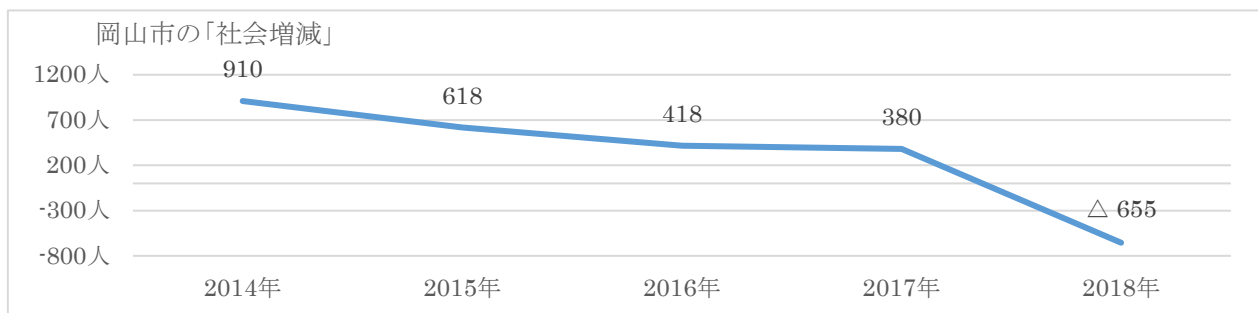
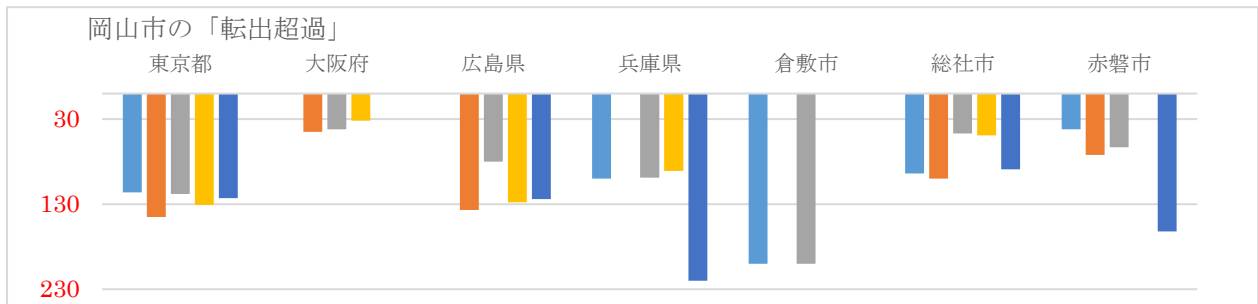
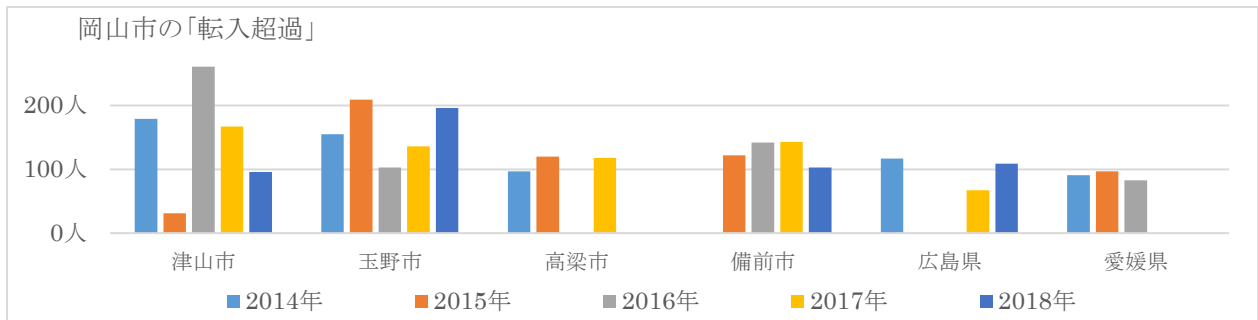
グラフ5は津山市と岡山市の転入・転出超過と社会増減の推移を表している。

津山市は美作市をはじめ県北部の市町村から人が集まり、岡山市などに人が転出しており、岡山市は首都圏や関西圏などに人が転出している状況がうかがえる。特に岡山市は今まで転入超過の状態が続いていたが、2018（平成30）年になって周辺のベッドタウンなどへの転出により転出超過に転じた。また津山市は転出超過が続いていたが、近年改善の方向に進んでおり、2018（平成30）年には社会増減が△2人となった。

かつては県内市町村から岡山市への転入超過により県全体の人口減少を防いでいたが、岡山県は2005（平成17）年をピークに人口減少が続いている。このことは上記の影響を受けているものと言え、また日本全体でも同様のことが起こっており、日本の縮図が県内にも表れていると言える。

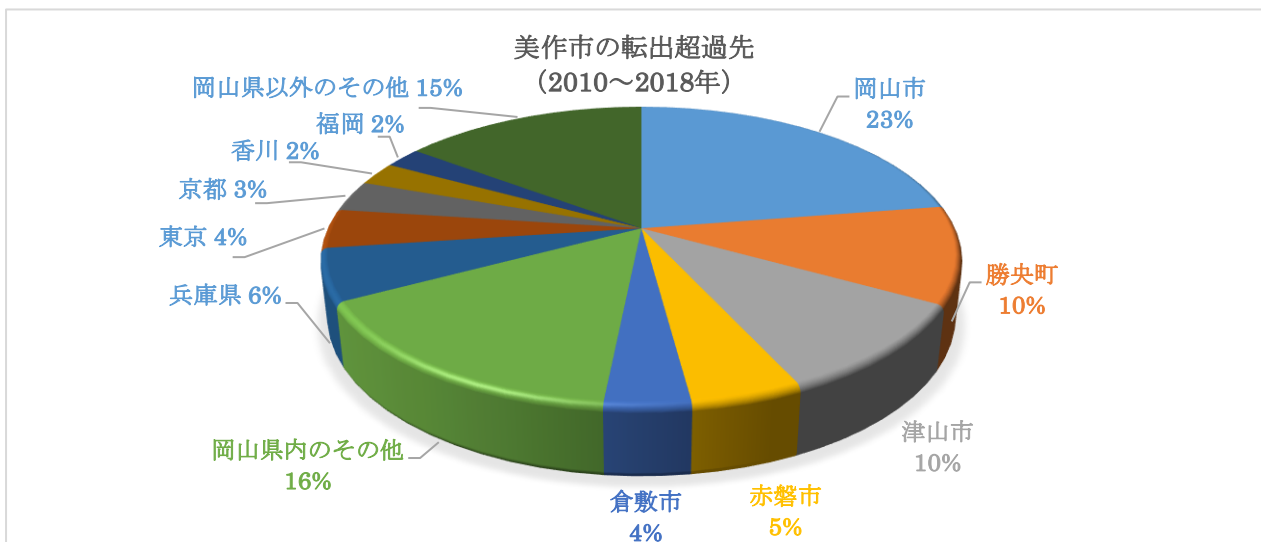
グラフ5 【津山市と岡山市の転入転出超過、社会増減の推移】





(出典：地域経済分析システム (RESAS))

グラフ6 【美作市の転出超過先】



(出典：美作市市民部調べ)

上記のグラフ6を見ると、美作市からの転出先の約7割が県内への転出であり、県内の転出においては、岡山市・勝央町・津山市への転出が約6割を占めていることがわかる。

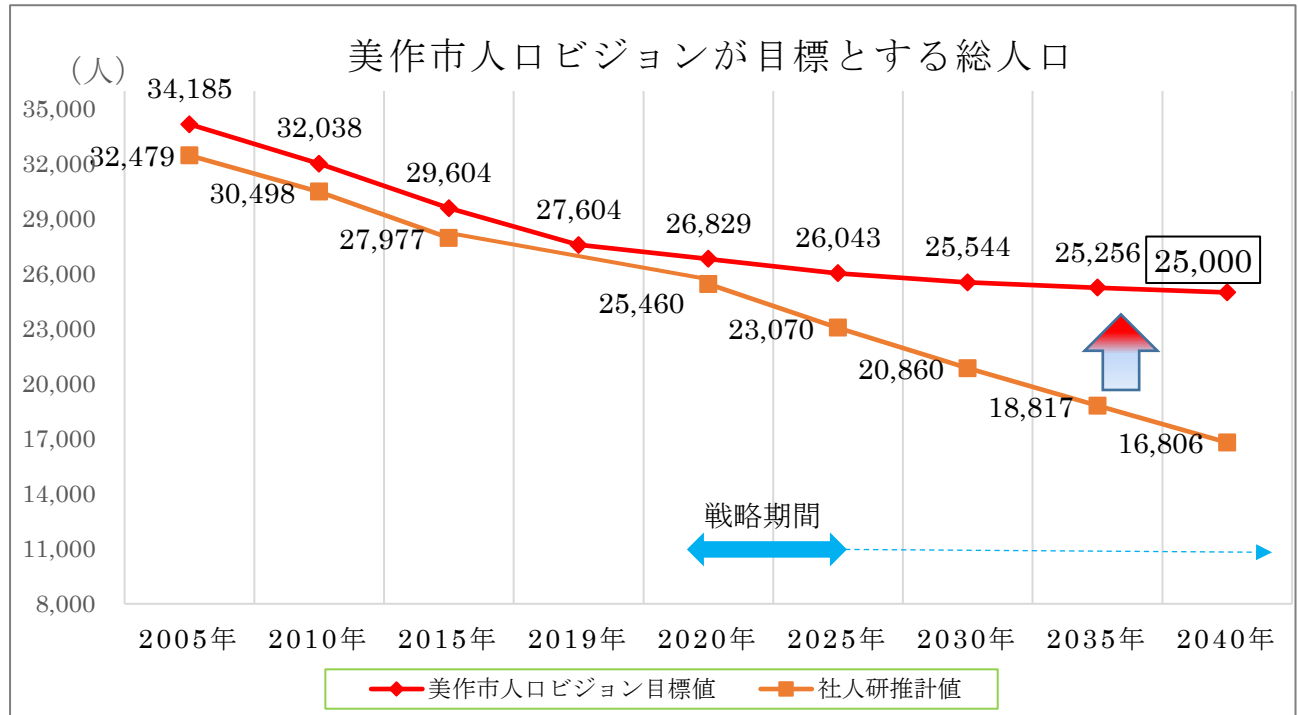
美作市としては、岡山市、津山市などへの転出をいかに防ぐかが、社会減をなくすための喫緊の課題であることが見て取れる。これは自治体における地方創生の取り組みとして、お互いの良い刺激になるものであり、日本全体に貢献すると考えられる。

4 美作市人口ビジョンの目標

合計特殊出生率を、2020年までに1.80、2025年までに2.10に。
2040年の美作市住民基本台帳の人口を25,000人以上に。

美作市は2040年の住民基本台帳の人口を25,000人以上の維持を目指していきたい。

グラフ7【美作市人口ビジョンが目標とする総人口】



(出典：住民基本台帳、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30(2018)年推計))

グラフ7にみられるように、美作市の人口は目標値に沿って推移している。ただし、2019年にはその幅が狭まってきているのがわかる。

目標達成のため、自然増減と社会増減の目標をどう設定すべきか、以下に検討する。

(1) 自然増減の目標について

国においては、人口が増加もしくは減少もしない均衡した状態になる合計特殊出生率の水準である人口置き換え水準となる合計特殊出生率は、概ね2.07とされている。

岡山県が発行している「岡山県出生率地域格差要因分析業務報告書」のデータでは、2015年時点での美作市の合計特殊出生率は1.56とされている。美作市ではこれを2020年までに1.80に、2025年までに人口置き換え水準プラス α である2.10まで引き上げることを目標とする。

2.10を目標とする理由は、人口置き換え水準を超える合計特殊出生率を達成できないままであると、人口維持のためには未来永劫社会増に頼らざるを得ないことになるが、それは、我が国全体の人口を考えると、望ましい姿ではないからである。

(2) 社会増減の目標について

グラフ7にみられるように、美作市の人口は推計値より若干良い状況で推移しており、これを継続していくことが重要である。

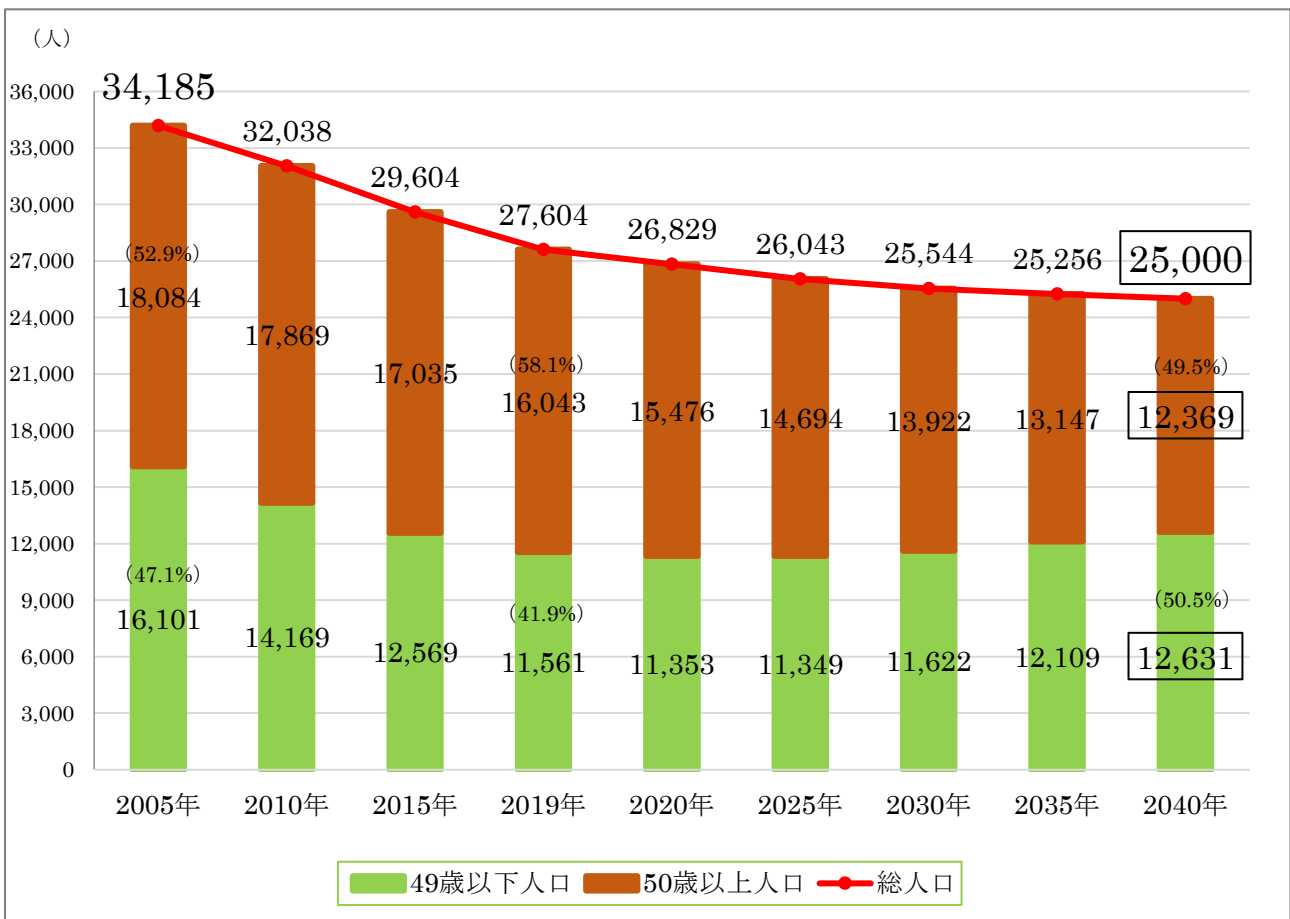
合計特殊出生率を2020年までに1.80に、2025年までに人口置き換え水準プラス α である2.10まで引き上げた場合、美作市の現在の社会増減の状況を前提とすると、2040年の推計人口は17,599人(P.10 表1参照)となり、国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)が推計(「日本の地域別将来推計人口」(平成30(2018)年推計)する2040年の人口である16,806人と比較して793人の改善がみられるものの、目標の25,000人には及ばない。したがって、目標の25,000人に不足する7,401人については、社会増によって補う必要がある。

2040年に25,000人の人口を実現するには、自然増を社会増によって補う必要があるが、その際、自治体の消滅可能性を解消するためにグラフ9の人口ピラミッドにみられるような先細りの人口構成を是正することが望ましい。

よって、社会増を図る際には、WHOが合計特殊出生率を計算する際、出産可能年齢の上限としている49歳以下の層をターゲットにすることが適当である。合計特殊出生率が上昇しても、その対象となる49歳以下の女性の数が少なければ、出生数は継続して増加しないからである。

社会増を49歳以下の年齢層で行うとすると、グラフ8の赤の実線に示す各年の人口の49歳以下人口と50歳以上人口の内訳のとおりである。

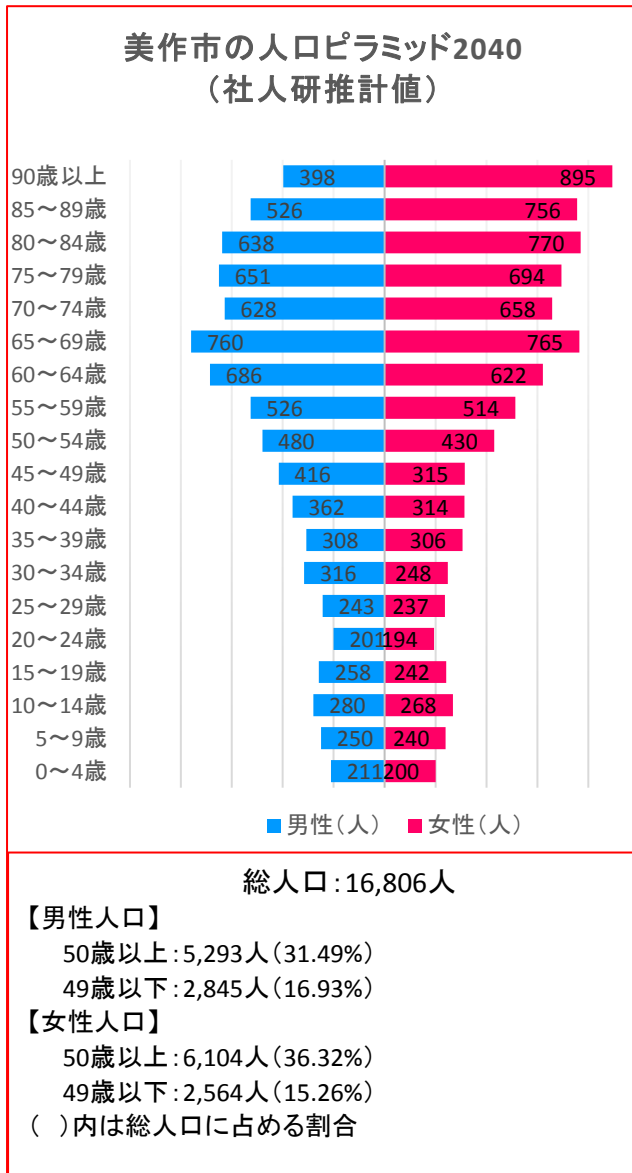
グラフ8 【美作市人口ビジョンが目標とする49歳以下人口・50歳以上人口】



グラフ10の人口ピラミッドは、グラフ8で示す美作市人口ビジョンの目標を達成した際の、2040年の人口構成を表している。社人研が推計する2040年人口構成であるグラフ9と比較すると、若年人口が大幅に増加し、49歳以下人口と50歳以上人口のバランスが改善されていることが分かる。

グラフ9

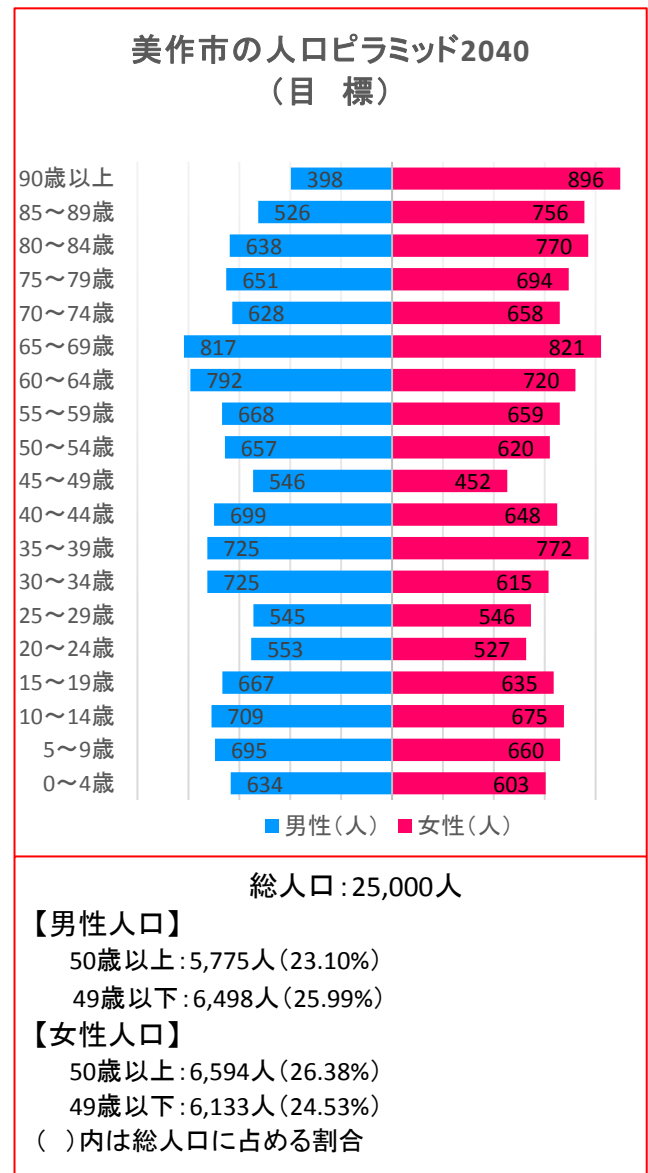
【美作市の人口ピラミッド 2040(社人研推計値)】



(出典: 社人研「日本の地域別将来推計人口」(平成30(2018)年推計))

グラフ10

【美作市の人口ピラミッド 2040(人口ビジョン目標)】



(美作市人口ビジョンの目標)

グラフ8及び10で示す美作市人口ビジョンの目標を達成するために、49歳以下人口をターゲットに社会増を図り、その社会増が自然増にも資するようになる必要があることは既に述べたとおりである。

以下、第2期「美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、合計特殊出生率を、2020年までに1.80、2025年までに2.10に、2040年の美作市住民基本台帳の人口を25,000人以上にという人口ビジョンの目標を達成するために必要な戦略を順次述べていく。

表1 「社会増減については若干良い状況で推移しているという前提で、合計特殊出生率を2020までに1.80に、2025年までに人口置換水準プラス α である2.10まで引き上げた場合の人口推移」

年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計特殊出生率（t f r）	1.56	1.80000	2.10000	2.10000	2.10000	2.10000
総人口（人）A	27,977	25,577	23,409	21,396	19,509	17,599
目標とする人口（人）B	—	26,829	26,043	25,544	25,256	25,000
目標に不足する人口（人）B-A	—	1,252	2,634	4,148	5,747	7,401

（参考：総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）